

教室と教出を結ぶ

リンク



冬の空を飛翔するオオワシ（北海道 野付半島）

目次

■特集 これからの理科教育と新しい教科書

新学習指導要領の特徴	2
指導計画の作成	4
評価の観点	10
新しい教科書での主な変更点	11

中学校では、平成 21 ～ 23 年度までの 3 年間にわたって移行措置が実施されておりますが、平成 24 年度からは新しい教科書を使った新学習指導要領の全面実施が始まります。新しい教科書は、第 1 学年・第 2 学年・第 3 学年の 3 分冊となり、各学年の生徒にそれぞれ 1 冊が供給されることとなります。今回は、新学習指導要領の特徴、指導計画の作成、評価の観点、新しい教科書での主な変更点についてお知らせいたします。

新学習指導要領の特徴

学習指導要領改訂の基本的な考え方

- 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- 「生きる力」という理念の共有
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

学校教育法 第三十条

- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

教育内容に関する主な改善事項

- 言語活動の充実
- 理数教育の充実
- 伝統や文化に関する教育の充実
- 道徳教育の充実
- 体験活動の充実
- 外国語教育の充実（小学校段階における外国語活動）

理科教育における課題

- ① 理科の学習に対する意欲は高いが、それが大切だという意識が高くない。
- ② 国民の科学に対する関心が低い。
- ③ 理科学習の基盤となる自然体験、生活体験が乏しい。
- ④ 基礎的な知識、理解が十分でない。
- ⑤ 科学的な思考力や表現力が十分でない。

理科学習指導要領改訂の基本的な考え方

- 科学に関する基本的概念の一層の定着
 - ・ 科学の基本的な見方や概念を柱に、構造化、充実
 - ・ 小・中・高の接続、国際的な通用性、内容の系統性の確保等
- 科学的な思考力・判断力・表現力の育成
 - ・ 科学的に探究する学習活動を一層重視
 - ・ 目的意識をもった主体的で意欲的な観察、実験

「科学的」とは…

- ・ 論理的、実証的で、系統立っていること

「探究する学習活動」とは…

- ・ 問題を見出し観察、実験を計画すること
- ・ 観察、実験の結果を分析して解釈すること
- ・ 導き出した自らの考えを科学的に説明すること など



(言語力の育成)

言語活動をさせることが目的ではなく、科学的な思考力などの理科の能力を伸ばすことが目的

- 科学への関心を高め、科学を学ぶ意義や有用性を実感させる
 - ・ 日常生活や社会との関連を重視
 - ・ 環境教育の充実
- 自然体験、科学的な体験の充実
 - ・ 自然体験や科学的な体験の充実を図ることに配慮

指導計画の作成

教科書の改善

新学習指導要領の全面実施にあわせて、教科書も質・量ともに充実

教科書を使用するに当たっての留意点

- 教科書は、各教科の指導に当たって主たる教材として使用されるべきもの。
- 教科書には発展的な学習や繰り返し学習など、児童生徒の理解の程度に応じたさまざまな工夫がなされており、教科書に記述された内容はすべて教えるなければならないものではない。
- 学習指導要領の範囲内で教員の創意工夫により、児童生徒の理解の程度等に応じて、充実した教科指導が行われるよう教科書を活用することが重要。

※「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」ことによる指導改善の推進

新しい教科書は、内容の系統性に配慮しながら、地域の特性、学校や生徒の実態に応じて柔軟に指導計画を作成することができるよう、次ページのように、各学年の前半を1分野、後半を2分野としています。また、早期に基礎的・基本的な技能を習得することができるように、1分野の前半を化学領域、後半を物理領域、2分野の前半を生物領域、後半を地学領域としています。6～9ページに1分野先行型（A）と2分野先行型（B）の年間学習指導計画案を紹介しておりますが、例えば、第1学年はB、第2学年はA、第3学年はBというように学年によって始める分野を変えたり、単元の順序を入れ替えたりして指導することも可能です。

指導計画の作成と内容の取扱い（中学校の主な変更点）

〔指導計画の作成〕

- ・問題を見だし観察、実験を計画
- ・観察、実験の結果を分析し解釈
- ・科学的な概念を使用して考え、説明
- ・原理や法則の理解を深めるためのものづくり
- ・継続的な観察や季節を変えての定点観測
- ・博物館や科学学習センターなどと積極的に連携、協力

〔内容の取扱い〕

- ・科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることにもふれる。
- ・理科で学習することがさまざまな職業などと関係していることにもふれる。

学年	単元名・章名（数字は配当時数のめやす）	学習指導要領	構成・特色
第1学年	1分野 1身のまわりの物質（29） 1章 物質の区別／2章 いろいろな気体の性質 3章 水溶液の性質／4章 物質の状態変化	1分野(2) 7(7)／7(1) 1(7)(1)／7(7)(1)	1分野では化学領域から学習を始めることにより、ガスバーナーの使い方などの技能を早期に身につけられるようにしています。2分野の生物領域では「葉・茎・根のつくりとはたらき」の学習を分けることにより、無理なく学習できるようにしています。地学領域では火成岩と堆積岩を連続して学習し、難易度が高い地震の学習で終わられるようにしています。
	1分野 2光・音・力（24） 1章 光とその性質／2章 音とその性質 3章 力と圧力	1分野(1) 7(7)(1)／7(7) 1(7)(1)	
	2分野 1植物の世界（28） 1章 身のまわりの生物を観察しよう 2章 花のつくりとはたらき 3章 根・茎・葉と水のゆくえ／4章 葉と日光 5章 植物のなかま	2分野(1) 7(7) 1(7) 1(1)／1(1) 7(7)(1)	
	2分野 2大地の成り立ちと変化（24） 1章 火山活動と火成岩 2章 大地の歴史と地層 3章 地震と大地の変化	2分野(2) 7(7) 1(7) 7(1)	
第2学年	1分野 3化学変化と原子・分子（32） 1章 分解と化合 2章 物質の成り立ち 3章 酸化と還元／4章 化学変化と物質の質量	1分野(4) 7(7), 1(7) 7(1), 1(7) 1(1)(7)／7(7)(1)	1分野では化学領域から学習を始め、物理領域では「静電気と電流」から学習を始めることにより、粒子概念を早期に身につけられるように、電流や電圧、抵抗を粒子モデルでとらえられるようにしています。2分野の生物領域では「生物と細胞」と「刺激と反応」を連続して学習し、難易度が高い「生命を維持するはたらき」の学習に続きますようにしています。
	1分野 4電流とそのはたらき（36） 1章 静電気と電流／2章 電流と電圧 3章 電流のはたらき	1分野(3) 7(1)／7(7)(1) 7(7), 1(7)(1)(7)	
	2分野 3動物の世界と生物の移り変わり（40） 1章 生物の細胞と個体／2章 動物の行動のしくみ 3章 動物の生命維持のしくみ／4章 動物のなかま 5章 生物のなかまとその移り変わり	2分野(3) 7(7)／1(1) 1(7)／7(7)(1) 1(7)	
	2分野 4気象とその変化（32） 1章 気象の観測／2章 空気中の水の変化 3章 低気圧と天気の変化 4章 大気の動きと日本の気象	2分野(4) 7(7)／1(7) 1(1) 7(7)(1)	
第3学年	1分野 5化学変化とイオン（23） 1章 水溶液とイオン 2章 酸・アルカリとその反応	1分野(6) 7(7)(1)(7) 1(7)(1)	1分野では化学領域から学習を始めることにより、物理領域のエネルギーにかかわる内容でも異なる学習指導要領の項目に属する「力学的エネルギーの保存」と「さまざまなエネルギーとその変換」を連続して学習できるようにしています。2分野の地学領域では身近な「太陽のようす」や「月の運動と見え方」から学習を始め、相対的な視点が必要となる「日周運動と自転」や「年周運動と公転」の学習に続きますようにしています。 また、1分野・2分野共通の「自然環境の保全と科学技術の利用」は最後にまとめ、学習しやすいようにしています。
	1分野 6運動とエネルギー（30） 1章 物体にはたらく力／2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー	1分野(5) 7(7)／7(1)(7) 1(7)(1)	
	1分野 7科学の発展と人間の生活（15） 1章 エネルギーの移り変わり 2章 エネルギー資源とその利用 3章 科学・技術の発展	1分野(7) 7(7) 7(1) 1(7)	
	2分野 5生物の殖え方と遺伝（22） 1章 植物や動物の成長／2章 植物や動物の殖え方 3章 遺伝の規則性と遺伝子	2分野(5) 7(7)／7(1) 1(7)	
	2分野 6地球と宇宙（24） 1章 身近な天体 2章 天体の1日の動きと地球の運動 3章 天体の1年の動きと地球の運動 4章 太陽系と宇宙の広がり	2分野(6) 1(7)(1) 7(7) 7(1) 1(7)	
	2分野 7自然と人間（22） 1章 生物と環境／2章 人間と環境 3章 自然の恵みと災害	2分野(7) 7(7)／7(1) 1(7)	
	1分野・2分野（4） 終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	1分野(7)7(7) 2分野(7)7(7)	

平成 24 年度 年間学習指導計画案 A (1 分野先行型)

●第 1 学年 (週 3 時間)

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 9時間	1 身のまわりの物質	29	1章 物質の区別	7
			2章 いろいろな気体の性質	6
5月 9時間			3章 水溶液の性質	6
6月 12時間			4章 物質の状態変化	7
			(ゆとり)	3
7月 6時間	1 植物の世界	28	1章 身のまわりの生物を観察しよう	4
			2章 花のつくりとはたらき	4
9月 12時間			3章 根・茎・葉と水のゆくえ	6
			4章 葉と日光	5
10月 9時間			5章 植物のなかま	5
			(ゆとり)	4
11月 12時間	2 光・音・力	24	1章 光とその性質	7
			2章 音とその性質	4
12月 9時間			3章 力と圧力	11
			(ゆとり)	2
1月 9時間	2 大地の成り立ちと変化	24	1章 火山活動と火成岩	7
			2章 大地の歴史と地層	8
2月 12時間			3章 地震と大地の変化	7
3月 6時間			(ゆとり)	2
合計	9 4 時間 (ゆとり 1 1 時間)			

●第 2 学年 (週 4 時間)

配当月	単元名	時数
4月 12時間	3 化学変化と原子・分子	32
5月 12時間		
6月 16時間		
	3 動物の世界と生物の移り変わり	40
7月 8時間		
9月 16時間		
10月 12時間	4 電流とそのはたらき	36
11月 16時間		
12月 12時間		
1月 12時間		
	4 気象とその変化	32
2月 16時間		
3月 8時間		
合計	(ゆとり 1 1 時間)	

●第3学年（週4時間）

章名	時数
1章 分解と化合	7
2章 物質の成り立ち	6
3章 酸化と還元	9
4章 化学変化と物質の質量	6
(ゆとり)	4
1章 生物の細胞と個体	4
2章 動物の行動のしくみ	4
3章 動物の生命維持のしくみ	12
4章 動物のなかま	9
5章 生物のなかまとその移り変わり	3
(ゆとり)	8
1章 静電気と電流	4
2章 電流と電圧	12
3章 電流のはたらき	12
(ゆとり)	8
1章 気象の観測	5
2章 空気中の水の変化	8
3章 低気圧と天気の変化	3
4章 大気の動きと日本の気象	7
(ゆとり)	9
1 1 1 時間 (ゆとり 2 9 時間)	

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 12時間	5 化学変化とイオン	23	1章 水溶液とイオン	12
			2章 酸・アルカリとその反応	8
5月 12時間			(ゆとり)	3
6月 16時間	5 生物の殖え方と遺伝	22	1章 植物や動物の成長	3
			2章 植物や動物の殖え方	9
7月 8時間	6 地球と宇宙	24	3章 遺伝の規則性と遺伝子	5
			(ゆとり)	5
9月 16時間	6 地球と宇宙	24	1章 身近な天体	6
			2章 天体の1日の動きと地球の運動	4
10月 12時間	6 運動とエネルギー	30	3章 天体の1年の動きと地球の運動	5
			4章 太陽系と宇宙の広がり	4
11月 16時間	6 運動とエネルギー	30	(ゆとり)	5
			1章 物体にはたらく力	8
12月 12時間	7 科学の発展と人間の生活	15	2章 物体の運動	9
			3章 仕事とエネルギー	10
1月 12時間	7 科学の発展と人間の生活	15	(ゆとり)	3
			1章 エネルギーの移り変わり	5
2月 16時間	7 自然と人間	22	2章 エネルギー資源とその利用	4
			3章 科学・技術の発展	3
3月 8時間	7 自然と人間	22	(ゆとり)	3
			1章 生物と環境	7
3月 8時間	(1分野・2分野)	4	2章 人間と環境	6
			3章 自然の恵みと災害	5
合計			(ゆとり)	4
			終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4
合計		1 1 7 時間 (ゆとり 2 3 時間)		

平成 24 年度 年間学習指導計画案 B (2 分野先行型)

●第 1 学年 (週 3 時間)

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 9時間	1 植物の世界	28	1章 身のまわりの生物を観察しよう	4
			2章 花のつくりとはたらき	4
5月 9時間			3章 根・茎・葉と水のゆくえ	6
			4章 葉と日光	5
6月 12時間			5章 植物のなかま	5
			(ゆとり)	4
	1 身のまわりの物質	29	1章 物質の区別	7
7月 6時間			2章 いろいろな気体の性質	6
			3章 水溶液の性質	6
9月 12時間			4章 物質の状態変化	7
10月 9時間			(ゆとり)	3
	2 大地の成り立ちと変化	24	1章 火山活動と火成岩	7
11月 12時間			2章 大地の歴史と地層	8
12月 9時間			3章 地震と大地の変化	7
			(ゆとり)	2
1月 9時間	2 光・音・力	24	1章 光とその性質	7
			2章 音とその性質	4
2月 12時間			3章 力と圧力	11
3月 6時間			(ゆとり)	2
合計	9 4 時間 (ゆとり 1 1 時間)			

●第 2 学年 (週 4 時間)

配当月	単元名	時数
4月 12時間	3 動物の世界と生物の移り変わり	40
5月 12時間		
6月 16時間		
7月 8時間	3 化学変化と原子・分子	32
9月 16時間		
10月 12時間	4 気象とその変化	32
11月 16時間		
12月 12時間		
1月 12時間	4 電流とそのはたらき	36
2月 16時間		
3月 8時間		
合計	(ゆとり 1 1 時間)	

●第3学年（週4時間）

章名	時数
1章 生物の細胞と個体	4
2章 動物の行動のしくみ	4
3章 動物の生命維持のしくみ	12
4章 動物のなかま	9
5章 生物のなかまとその移り変わり (ゆとり)	3 8
1章 分解と化合	7
2章 物質の成り立ち	6
3章 酸化と還元	9
4章 化学変化と物質の質量 (ゆとり)	6 4
1章 気象の観測	5
2章 空気中の水の変化	8
3章 低気圧と天気の変化	3
4章 大気の動きと日本の気象 (ゆとり)	7 9
1章 静電気と電流	4
2章 電流と電圧	12
3章 電流のはたらき (ゆとり)	12 8
1 1 1時間 (ゆとり 2 9時間)	

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 12時間	5 生物の殖え方と 遺伝	22	1章 植物や動物の成長	3
			2章 植物や動物の殖え方	9
5月 12時間	5 化学変化と イオン	23	3章 遺伝の規則性と遺伝子 (ゆとり)	5 5
			1章 水溶液とイオン	12
6月 16時間	6 地球と宇宙	24	2章 酸・アルカリとその反応 (ゆとり)	8 3
			1章 身近な天体	6
7月 8時間	6 運動と エネルギー	30	2章 天体の1日の動きと地球の運動	4
			3章 天体の1年の動きと地球の運動	5
9月 16時間	7 科学の発展と 人間の生活	15	4章 太陽系と宇宙の広がり (ゆとり)	4 5
			1章 物体にはたらく力	8
10月 12時間	7 自然と人間	22	2章 物体の運動	9
			3章 仕事とエネルギー (ゆとり)	10 3
11月 16時間	7 自然と人間 (1分野・2分野)	22 4	1章 エネルギーの移り変わり	5
			2章 エネルギー資源とその利用	4
12月 12時間	終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4	3章 科学・技術の発展 (ゆとり)	3 3
			1章 生物と環境	7
1月 12時間	終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4	2章 人間と環境	6
			3章 自然の恵みと災害 (ゆとり)	5 4
2月 16時間	終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4	3章 自然の恵みと災害 (ゆとり)	5 4
			終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4
3月 8時間	終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4	終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4
			終章 科学・技術の利用と自然環境の保全	4
合計			1 1 7時間 (ゆとり 2 3時間)	

評価の観点

学習評価改善の基本的な考え方

現在行われている学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図る



各教科における観点別学習状況の評価と評定については、目標準拠評価として実施（きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着）

新学習指導要領における改善事項を反映



新学習指導要領で示された学力の3つの要素にもとづいて評価の観点を整理 など

教育は、地域や学校、児童生徒の実態に応じて効果的に行われることが重要



学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

学力の3つの要素と新しい評価の観点

新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める。

基礎的・基本的な知識・技能



技能

及び

知識・理解

で評価

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等



思考・判断・表現

で評価

主体的に学習に取り組む態度



関心・意欲・態度

で評価

※各教科の評価の観点は、上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

新しい理科の評価の観点

- 自然事象への関心・意欲・態度
- 科学的な思考・表現
 - ・ 思考したところを、表現する活動と一体的に評価
- 観察・実験の技能
 - ・ 観察、実験の基本操作、観察、実験の過程や結果を的確に記録し整理 など
- 自然事象についての知識・理解

新しい教科書での主な変更点

新しい教科書では、今まで社によって異なっていた用語などの表記の統一を図るとともに、新学習指導要領、教科書検定などにもとづき、下記のような修正が施されております。ご指導の際はご注意ください。

器具名・薬品名など

現在ご使用中の教科書および補助教材	新しい教科書
赤キャベツ	アカキャベツ
安全めがね	安全眼鏡
インキ	インク
ゴムせん	ゴム栓
サーモテープ	示温テープ
酢酸オルセイン溶液	酢酸オルセイン液
酢酸カーミン溶液	酢酸カーミン液
サフラニン溶液	サフラニン液
乳鉢	乳鉢
根掘り	根ほり
ばねはかり	ばねばかり
万能試験紙	pH 試験紙
BTB 溶液	BTB 液
フェノールフタレイン溶液	フェノールフタレイン液
メチレンブルー溶液	メチレンブルー液
ℓ (リットル)	L

1 分野の内容

時間 [秒], m/秒, cm/秒, km/時	時間 [s], m/s, cm/s, km/h
-------------------------	-------------------------

2 分野の内容

大脳	脳
デンプンは分解されると糖になる	デンプンは分解されるとブドウ糖になる
脂肪酸とグリセリンに分解される	脂肪酸とモノグリセリドに分解される
両生類が変化しては虫類が、は虫類が変化しては乳類や鳥類が出現	両生類が変化しては虫類やほ乳類が、は虫類が変化して鳥類が出現
生物の死がいや排出物にふくまれる有機物を分解する微生物を自然界の分解者という	生態系における消費者のうち、生物の死がいや排出物にふくまれる有機物を取り入れている生物を自然界の分解者という
炭素や酸素は生産者、消費者、分解者のはたらきを通して循環している	炭素が生産者、消費者、分解者のはたらきを通して循環している
人間の活動によって、地球の平均気温が上昇することを地球温暖化とよんでいる	地球の平均気温が上昇する現象を地球温暖化とよんでいる



教育現場とリンク

教育出版

エデュコネット

EducoNet の会員を募集しています!

入会金・会費は無料です!



会員の皆様に、インターネットを通じて教育情報をご提供します。



教育関係者専用のWEBサイトです。

役立つ資料・情報の宝庫です。

- 教育情報……教育界の動向等の情報提供
- 教科のページ……年間指導計画・評価基準・高校シラバス・教科別お役立ちコーナー・編集部からのお知らせなど
- メールマガジン……教育関連情報をタイムリーに発信

会員は…

- ◆会員専用のコンテンツにアクセスできます。
- ◆メールマガジンが定期的に配信されます。

申し込みを受け付け後、ID・パスワードを勤務先に郵送します。



教育出版 EducoNet 会員登録について

★WEBにて受け付けています!!
教育出版ホームページまたは
<http://educonet.jp/entry.html> に
アクセスしてください。

※個人会員のほかに、教育委員会・学校単位での申し込みも受け付けます。

教育出版ホームページの主な内容
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

EducoNet (会員制)

- ・年間指導計画
- ・評価基準
- ・教科別お役立ちコーナー
- ・教科通信
- ・ニュースレター
- ・各種教育情報
- ・編集部から
- ・メールマガジン

■ 情報提供

…教育情報・総合的な学習・研究会日程

■ 各種リンク集

■ ご案内

…教科書内容・教師用指導書・教材品

■ 教科書関連資料・写真館

■ 新刊書紹介

■ もの知りテーマパーク

■ 地球時代の教育情報誌Educo



▶▶ EducoNet 事務局 E-mail : educonet@kyoiku-shuppan.co.jp

中学理科通信 リンク [2011年 秋号] 2011年9月30日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0033 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F
TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411